

災害はいつ起こるかわかりません。

ペットと飼主が離れ離れになると、ペットが衰弱・死亡するおそれがあるだけでなく、望まない繁殖で人の安全や生活環境を悪化させるおそれがあります。

こうした事態の防止には、ペットとの同行避難が必要であるといわれています。

飼主は、災害時にペットの安全と健康をまもるとともに、他の避難者への迷惑とならないようにしなければなりません。日頃から災害時を想定し、このリーフレットに書いてあることを準備しておきましょう。

1. 避難場所の確認

ペットと同行避難が可能な施設は、半田市のホームページでご確認ください

○受け入れ可能な動物種

犬・猫・小鳥等の小動物が原則です。

(飼う前に、種類・頭数を検討しましょう。)

○他の避難者とのトラブルを避けるため、**狂犬病予防注射を毎年必ず接種しましょう。**

○小動物であっても暴れることが想定されるようであれば、ケージに入れて避難しましょう。

○ペットの避難場所はあらかじめ決められた場所となります。(避難者の生活場所と離れた場所で、自転車置き場、軒下、テント、施設駐車場での飼い主の車中などになります。)

○ペットにも大きなストレスがかかります。緊急時にペットを預かってくれる人や場所を考えておくことも大切です。

2. 防災用品の準備

ペットの備えは飼主の責任で行ってください。

救援物資の到着には時間がかかるので、最低でも次のものは用意しておきましょう。

- エサと水(5日分程度)
- ケージやキャリーバッグ
- リードやハーネス
- トイレ用具(ビニール袋、古新聞、ペットシート、猫砂など)
- おもちゃ
- 写真

(ペットと家族の方が一緒に写っているもの※)

※飼主であることの証明となります

3. 身元表示をしましょう

飼主がわかるよう、身元表示をしましょう。

○飼犬には鑑札と注射済票を装着してください。

※法改正により、令和4年度より装着されたマイクロチップを鑑札とみなすことが決定されています(詳細は未定)



4. 健康管理としつけ

ペットの健康管理としつけをしましょう。

避難所には多数の避難者が集まります。他の方への迷惑とならないようにしましょう。

ワクチン接種

感染症予防のため必要なワクチンを接種しましょう。

基本的なしつけ

むやみに吠えたり、人に危害を加えたりしないよう、また、決まった場所で排せつができるようにしつけましょう。

避妊去勢手術

避妊去勢手術をすると、他のペットとの望まない繁殖を防ぐことができます。

ケージやキャリーバッグに慣らす
スムーズに避難し避難所でおとなしくしていただけるよう、普段から慣らしておきましょう。

5. 災害が発生したら

- ペットの逃走防止のために
 - ・ ペットはリードでつながか、ケージに入れましょう。
 - ・ 小型犬や猫はキャリーバッグに入れる方法もあります。
- 同行避難の際には
 - ・ 防災用品を持参しましょう。
 - ・ 犬は首輪が緩まないよう確実につなぎましょう。

6. 避難所では

窓口で届出をして、指示に従ってください。

- ★ペットの管理は飼主が責任をもって行います。
 - 避難所ごとに決められた、ペットの飼育ルールを守ってください。
 - ペットはリードでつながかケージ等に入れ、逃がさないようにしてください。
 - 首輪、リード、ケージ等には名札をつけてください。
 - エサ、フン尿、抜け毛等の後始末をしてください。**避難所には、喘息などアレルギーをお持ちの方もいます。避難所における生活環境の管理にご配慮とご協力をお願いします。**
- ※ペットの世話は他の飼主と協力しましょう。

【参考】

「災害、あなたとペットは大丈夫？」
-人とペットの災害対策ガイドライン-
〈一般飼い主編〉 環境省発行



(問い合わせ先)

半田市環境課 0569-21-4001

ペットの災害対策

～同行避難と日頃の備え～

半田市環境課

平成31年4月 作成
(令和2年2月 改訂)